



深まる秋、
寮生なにいろ？

9年半前の「あの日」を振り返る
ヒッチハイク旅での出会い③
欧州サッカーのすすめ
Youは何しにWISHへ？

目次

2 9年前の「あの日」を振り返る

5 ヒッチハイク旅での出会い③

9 欧州サッカーのすすめ

10 Youは何しにWISHへ？

9年半前の『あの日』を振り返る

ライター・デザイナー：Yuki

あなたは2011年3月11日のことを
覚えていますか？

『東日本大震災』が起きた日です。9月11日で『あの日』から9年半が経ちました。あれから10年が過ぎようとしている中で、決して『あの日』の記憶が風化してしまわないようにこの記事を書きました。WISHには様々な都道府県から寮生が集まりますが、その中にはもちろん東北地方の出身者も多数います。そのため、WISHで出会った彼らから当時の体験を聞く機会も多く、話を聞く度に『あの日』のことについて改めて考えさせられます。この記事を書きかけにもう一度『あの日』のことに目を向けて欲しいというのが僕の願いです。そして、皆さんが『あの日』のことについて考えるきっかけになれば幸いです。

(※実際に被災されて思い出すのが辛い方は、他の記事をお楽しみください。)

繰り返しになりますが、東日本大震災から9年半が経ちました。
皆さんはこの「9年半」という年月をどのように感じますか？

僕は月日が流れていく速さを痛烈に感じます。そして、ほんの数年前の出来事だったかのように、『あの日』のあの瞬間のことを思い出すことができます。当時は、地元の名古屋にいたため、直接的な被害を受けることはありませんでした。しかし、テレビの画面に映っていた被災地の様子は本当に衝撃的なもので、その映像は今でも脳裏に焼き付いています。さらに、テレビは自分と同年代の人たちが被災し辛い状況にいることを伝えていました。それを知った当時の僕の心の中は、重くドロドロしたものが流れ込んでくるような上手く言葉に表せない苦しみを感しました。また、被災地の現状を知らながら自分は以前と変わらない日常を過ごしていることに少し後ろめたさもありました。しかし、小学生だった僕には東北を遠い場所のように感じていて、ただただテレビの前で被災地の様子を見ていることしかできませんでした。

震災から2年後、中学校の先生から名古屋市が行う東日本大震災に関する活動に参加してみないかと声をかけていただきました。僕の答えは明らかでした。ようやく自分にも何かできるかもしれないと思い、すぐに参加する旨を伝えました。それと同時に、ずっと胸の中にこびりついていながらも目をそらしていたものに向き合っていく覚悟を決めました。そして、僕は名古屋市立中学校の代表メンバーとして岩手県陸前高田市を訪問しました。現地の中学生との交流や被災地訪問、仮設住宅でのボランティア活動等に取り組みました。



それから3年後には、僕と同じような志を持った高校の同級生から、被災地の現状を知るためのツアーにお誘いを受けました。この時の答えもちろんイエスで、僕は宮城県南三陸町を訪問することになりました。そこでは被災地訪問や復興活動の現状調査、林業・養殖業等の産業体験を行いました。そして、その経験を他の生徒にも伝えるために一緒に行ったメンバーで全校生徒に向けて講演会も開きました。

僕が行ってきたことは直接的な支援になるようなものではないですが、それでもテレビの画面を越えて自分の身体で被災地の現状を感じ、心で被災者の方々の声を受け止められることができたのは大変貴重な経験でした。

ここからは、改めてこれまでの僕の経験を振り返った上で、この記事を読んでもらっている皆さんにお伝えしたいことです。

僕は二度の被災地訪問で地方行政の方や多くの被災者の方々とお話をさせていただきました。それらを通して、生々しい体験談や復興への取り組み・課題、防災に関するお話など様々なことを学んできました。そして、訪問した僕たちに伝えてくださったそれらのお話の中には、共通するメッセージがありました。そのメッセージとは、「『あの日』のことを忘れないでほしい。」ということです。『あの日』に多くの人が犠牲になってしまったこと、『あの日』から多くの人の当たり前だった日常が奪われてしまったこと、『あの日』の悲しみを多くの人が乗り越えようとしていること。これらのことが忘れ去られてしまうことが最も悲しいことだと多くの被災者の方がおっしゃっていました。さらに、もしまた震災が起きたときに『あの日』の経験が少しでも被害を小さくすることに繋がってくれたら嬉しいともおっしゃっていました。だからこそ、決して『あの日』のことを風化させてはいけないと伝えられました。被災者の方々のこの想いを繋ぐために、僕はこうしてこの記事を書いています。このように想いを繋ぐことが被災地訪問で多くのことを学ばせていただいた僕の使命だと思っています。最初にも言いましたが、この記事を書きかけにもう一度『あの日』のことを振り返ってもらいたいです。多くの人の努力により数字で表すことのできるような復興は完了に近づいています。しかし、全ての課題が解決しているわけではありません。当時は、小学生だった僕らも、大学生になりました。今だからこそできることもたくさんあると思います。是非今一度、『東日本大震災』に目を向けてみてください。

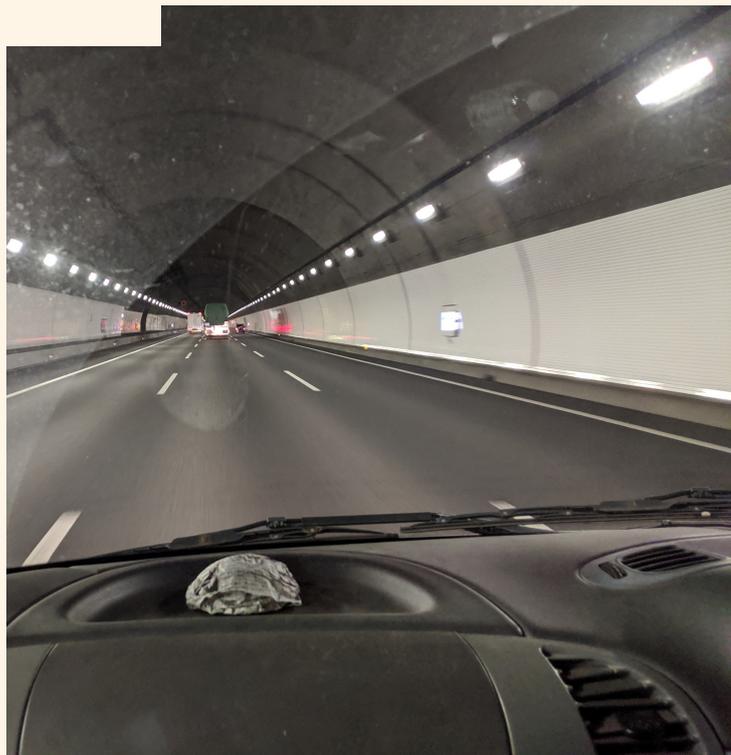
それから、僕は実際に被災地を訪れ、メディア等のフィルターを通さない確かなことを、自分の目と体で学び取りました。そのため、『あの日』から10年経った被災地を再び自分の目で見に行きたいと思っています。WISH寮生の中に、同じような志があり被災地を訪れたいと考えている方がいたら、僕にお声がけいただけたら嬉しいです。

最後まで読んでくださり、ありがとうございました。



ヒッチハイク旅での 出会い③

ライター：Satoshi
翻訳：Sarah
デザイン：Yukie



どの程度認知されているのか、どのくらいの方が読んでいるのか、全く定かではありませんが、私がWISHTimesにヒッチハイクの記事を寄稿し始めてから、約8ヶ月が経ちました。

「ヒッチハイクの初め方」を取り上げた2月号のときの私は一般寮生でしたが、今ではWISHTimesにRAとして編集にも携わっています。思えば私は毎回原稿の提出が締切ギリギリで、先輩RAの方たちにたくさんご迷惑をおかけしてきました。そんな先輩たちと現在一緒に活動できていることは嬉しい限りですが、一方でいつまでも頭が上がらないというのも事実です。さて、第4回目となる本記事ですが、今回は靴磨き慶應ボーイの取口さんを紹介します。取口さんとのエピソードですが、出会いも衝撃的でしたが、後日談も強烈でした。どのくらい強烈かというと、最終的に私が新宿で靴磨きに挑戦をするくらいに強烈です。大学2年生の冬休み、WISHの仲良し4人グループで大阪旅行へ行くことになりました。万年金欠の私が交通手段にヒッチハイクを選ぶことに、もはや迷いなどなく、次の日、私以外の3人が新幹線で悠々と東京から大阪へ向かい、現地で合流するという流れは4人の中の誰もが当たり前のこととして受けて止めていました。そうして私たちは旅の往路を別にしたのでした。

(中略)トイレ休憩のために立ち寄った静岡県の浜松パーキングエリアから車が発進しようとしていたとき、私が座る助手席から、スケッチブックを持ち、車が停まってくれるのを待っているヒッチハイカーの青年が見えました。そのスケッチブックを見ると、「京都方面まで」と書かれてあり、それは私がこのとき乗せていただいていた運転手さんの目的地と同じでした。運転手さんは既に私を乗せているため、彼のことを気に留めていない様子でしたが、そのヒッチハイカーの気持ちが痛いほど理解できた私は「あの人、京都行きたいみたいですし、乗せてあげませんか？」と厚かましくも運転手さんに進言しました。運転手さんは、一人も二人も変わらないかと快く相乗りをOKしてくださり、スケッチブックを持つ彼の前まで車を移動させました。

彼は運転席の窓越しに礼儀正しく挨拶をした後、後部ドアから車内に入ってきました。私たちに挨拶と簡単な自己紹介をしていた彼でしたが、その中で発覚したのが彼がああ憎き慶應ボーイであるということ。広くはない車内でヒッチハイク早慶戦の火蓋が切って落とされようとしていたそのとき、取口さんが私と運転手さんに手渡してきたもの、それはヨーグルト味の飴でした。「なんだいいやつじゃん」私は抜きかけていた舌刀を即座に元ある場所へと納めました。謹んで少しうまいことを言えば、そのようにして私が彼に対して抱いていた敵意はヨーグルト味の飴とともに、一瞬のうちに溶かされていったのでした。今振り返ってみると、最初の礼儀正しい挨拶、飴という細やかな心遣い、車内での会話の盛り上げ方、取口さんはおおよそヒッチハイカーに求められるスキル全てを兼ね備えており、完全に私より一枚上手でした。私はすっかり機嫌を取り戻し、とりあえずヨーグルト味の飴を口の中でコロコロ転がしながら、取口さんの軽妙なトークに耳を傾けました。



聞けば聞くほど取口さんは奇天烈なバックグラウンドを持っている方でした。まず、京都へ行く目的が「師匠に会いに行くため」というものでした。取口さんは大学卒業後、ファイナンシャルプランナーになることを目指しており、彼が師と仰ぐ著名なFPの方が住んでいる場所が京都ということでした。



そして、師匠に会うとまず「君はここまで何で来たの？」と聞かれるそうで、取口さんがヒッチハイクをするのは、そこで答える交通手段が面白ければ面白いほど、師匠の関心を引くことができるからでした。要するにネタ作りのためです。さらに私を驚かせたのが、彼が路上で靴磨きをしているということでした。自分の看板を背負ってお金を稼ぐ経験を詰むために、靴を磨いている間に自分の夢をプレゼンし、それに対する共感度合いによって、お気持ち料金を1円からいただいているそうです。そしてこれもファイナンシャルプランナーになるため、なのかは分かりませんが、師匠から与えられた課題なのでした。

私が興味深い話に感心していると、取口さんから「君も一緒にやってみない？」と唐突に尋ねられました。私は急な提案に混乱しながら「それは面白そうですね。やってみたいです。」と安請け合いをしてしまい、ひとまず取口さんとLINEを交換しました。私は京都のパーキングエリアで降ろしてもらい、運転手さんと取口さんの2人に感謝と別れを告げました。大阪までの最後の1台をヒッチハイクしているとき、携帯の通知音が鳴りました。取り出してLINEを開くと、取口さんから「東京靴磨き」という150人規模のLINEグループに招待されていました。こうして、私は靴磨きという興味深い世界に飛び込んでいくことになったのでした。

大阪旅行から1週間後、私は真冬の新宿駅で取口さんを待っていました。彼は待ち合わせの時間ぴったりに改札から出てきて、謎の小さなカバンを片手に、こちらへと歩いてきました。そして、そのカバンをいきなり私の胸に押し付け「この中に靴磨きの道具全部入ってるから、早速やってみようか。」と言い出したのでした。私はその日は靴磨きの見学と聞かされていたので、心の準備が出来ておらず、どうすればこの場所から逃げることができるかを考えようと思いました。しかしそんなことなどお見通しだったようで、巧みな話術（恐らくこの靴磨きの中で身に付けたであろう）で私はまんまと懐柔されていたのでした。

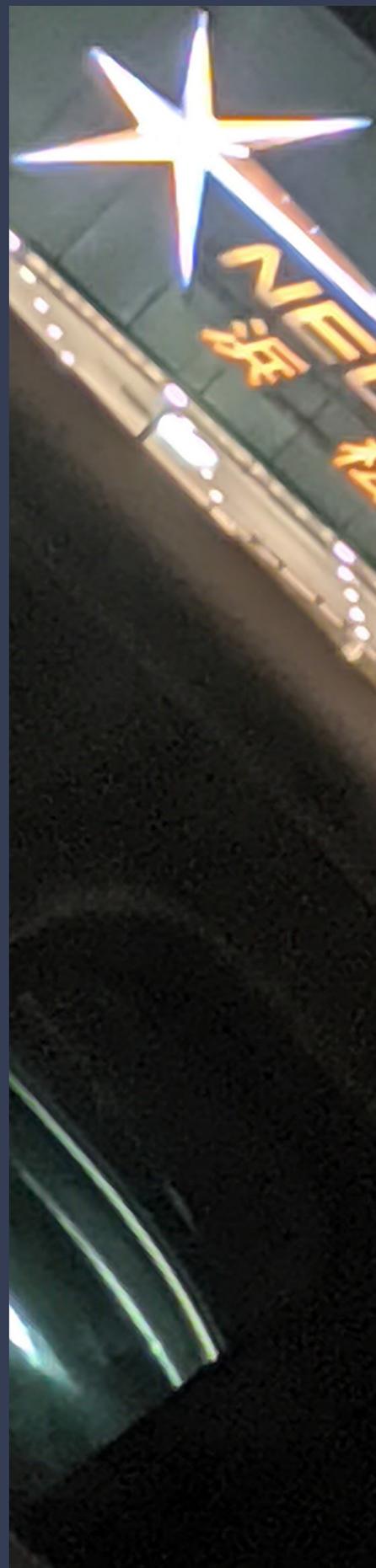
私は人生初の靴磨きをすることになりました。もちろん初経験の私がそうすんなりいくはずもなく、お金どころか誰の靴も磨けないまま声かけをしてから気づけば2時間が経っていました。私は適当な理由をつけて帰ろうと思い、何の成果も得られないままとぼとぼ取口さんの元へ戻って行きました。私が口を開こうとしたとき、取口さんは「じゃあスーパーでチョコレート買ってこようか。」と今回は本格的に訳のわからないことを言いました。渋谷近くのコンビニでチョコレートを購入し、再び彼のところへ戻りました。「じゃあこのチョコレートを1円売ってみよう。」この新宿区で一番チョコレートを食べたいのは間違いなく長時間の寒さと疲労がピークである私でした。予想を何度も裏切ってくる取口さんを目の前にしばらく安心してしまいました。

戦意喪失している私を見て、取口さんは一つアドバイスをくれました。靴磨きを断られてしまうのは、私が申し訳なさそうにしていることに原因があるということでした。確かに申し訳なさそうにつまらなそうな顔の人に声をかけられても、自分の時間を割こうとは思いません。逆に、楽しそうにノリ良く声をかければ、この人の話を聞いてみても良いかもだったり、面白いやつだと思ってもらえたりします。

それは就職の面接や普段の生活にも全く同じことが言えました。私はなんとか最後の気力を振り絞り、声掛けを再開しました。30分が経過したあたりで、50代くらいのサラリーマンの男性に声をかけました。私はそれまでの失敗を思い出し、なるべく笑顔で楽しむ気持ちで自分の夢についてお話ししました。「良い話聞けて良かった。チョコはあとでいただくね」と言って、感覚がほとんど残っていなかった僕の掌にお金を手渡しました。

成果は5円玉一枚。月並みな感想ですが、その5円玉は重く貴重なもののように感じられました。

最後まで読んでいただきありがとうございました。実は取口さんのFP事務所が高田馬場にあり、コロナ禍以前、大学の授業終わりには何度も事務所にお邪魔していました。この記事を書いたら取口さんに久しぶりに会いたくなってきました！それでは次回もお楽しみに！



欧州サッカーのすすめ

ライター:Kento 翻訳:Nao デザイン:Tina

WISHには日本の国内外から多種多様な寮生が集まりますが、そんな私たちを繋げてくれるものの一つがサッカーです。地元チームの熱狂的なファン、高校時代にインターハイに出場するほどまでサッカーに打ち込んできた寮生、世界のサッカーチームの放送を欠かさずチェックしている寮生。私たちはボール一つを抱えて公園へ遊びに行ったり、テレビの前で推しのクラブチームの勝利を応援したり、サッカーは間違いなくWISH寮生の生活に彩りを与えてくれています。

突然ですが、皆さんは地球上で最もサッカーがアツい地域を知っていますか？それはヨーロッパです。フランスがW杯で優勝したことは記憶に新しいでしょう。しかし、多くの方は欧州サッカーについて詳しく知らないと思います。

本記事で私がお伝えしたいのは欧州に無数にあるクラブチームについてです。クラブチームとは地域を背景とした有志によって運営される同好会組織です（Wikipediaより）。日本には浦和レッズや川崎フロンターレなどのクラブチームがあります。そして、欧州にも多くのクラブチームが存在します。今回は寮生のインタビューを交えて、欧州のクラブチームを紹介したいと思います。

本題に入る前に、なぜ私が欧州サッカーをお勧めするのかをお話します。一つ目は世界最高のプレーを見ることができるからです。サッカー選手にとって欧州は憧れの地であり、世界レベルの選手が多く集まります。初めてサッカーを見る人でもその凄さ、面白さは感じ取れるでしょう。二つ目はただ単に私が欧州サッカーが好きで、もっと多くの人に見てもらいたいからです。私の周りにはJリーグを見ている人はいても、欧州サッカーを見ている人はあまり多くありません。私は一人でも多くの仲間を作り、一緒に欧州サッカーで熱狂したいんです！



©Getty Images

リヴァプールFCについて

リヴァプールFCはイギリスのマーゼサイド州北西部に本拠地を構える歴史あるクラブです。現在、日本代表の南野拓実選手が所属しているので、日本とも関わりが深いチームです。今回は生粋のリヴァプールファンである三階RAの徳久武蔵さんにこのチームの魅力を語っていただきました。

リヴァプールの魅力を教えてください！

—まず、ファンが熱いことですかね。世界的にもリヴァプールのファンは熱いことで有名で、勝っている時でも負けている時でも一生懸命声援を送っていることが印象的です。また、チームソングである「You'll Never Walk Alone」をファンが一体となって歌う様子は圧倒的です。また、チームと地元の距離が近く、初めて見に来る人でも現地の人が暖かく迎えてくれます。なので、初めてサッカーを見に行く方でも行きやすい場所です。

リヴァプールFCを好きになったきっかけは何ですか？

—小学一年生の時に親と一緒に見た試合がきっかけです。その試合では当時キャプテンだったスティーブ・ジェラードという選手が素晴らしいプレーをし、カッコいいゴールを決めたのを今も鮮明に覚えています。また、その試合をきっかけに私はサッカーを始めました。

チームの実力はどうですか？

—昨年クラブワールドカップで優勝し、名実ともに世界一となりました。今、地球上で最も熱いチームといっても過言ではありません。世界的な選手も在籍していますし、イケメンな南野拓実選手もいるので女性にもおすすめのチームです。

最後に一言お願いします！

リヴァプール応援したら成績が上がったり、上がらなかったり...??！

以上が長年のリヴァプールファンである徳久さんの熱いインタビューでした。徳久さんはリヴァプールが好きすぎて、現地にまで行って試合を観戦してきたそうです。日本と欧州は遠く離れていますが、現在多くの配信サイトでサッカー中継を行っているので誰でも気軽に欧州の試合を見ることができます。このお話がきっかけで少しでも多くの方が欧州サッカーに興味を持っていただければ、筆者としてとても幸せです。また、お忙しい中インタビューに答えてくださった徳久さんにこの場を借りてお礼申し上げます。



さて、皆さんいかがでしたか。私は個人的にとてもサッカーが好きなので、今回このような記事を書かせていただきました。もし、WISH寮生の方でサッカーについて話したい、語りたという方、またこの記事を見て、サッカーに対して興味を持った方がいましたら私にお声がけいただけたら嬉しいです。



Y o u は 何 し に

W I S H へ

ライター：Akari, 翻訳：Moeka, デザイン：Rebecca

学生寮の数ある選択肢からWISHを選んで集った寮生たち。沢山の魅力があるWISHですが、他の寮生は何に惹かれて、何をするためにWISHに来たのでしょうか。今回はそれを紐解くべく3名の寮生にインタビューをしました。今まで気付かなかった新たなWISHの魅力に出会えるはずです！

法学部1年 R・Iさん

- ・ 出身地はどこですか。
出身地は仙台です。
- ・ あなたはいつWISHを知りましたか。
高校2年生の時です。実はお母さんの紹介で知りました。それから高2の時WISHのオープンハウスへ足を運び、その時にSIPプログラムのことを知りました。このきっかけが自分の志望校を早稲田にする決め手にもなりました。
- ・ あなたがWISHを住居に選んだ理由は何ですか。
一番の理由はSIPプログラムで学べることです。もちろん家賃の安さも理由の一つではあります。あと、留学生とたくさん交流できることも魅力的だと思います。
- ・ WISHに住んでみてわかったWISHの魅力は何ですか。
多様な出合いがあることです。私は上京前、地元で一人だった時は気付かなかったのですが、出会うことが力になるのだなと思いました。一期一会で、まだ会って間もないですが、本当に大切な友達に出会えました。
- ・ 今後WISHでしたいことはありますか。
私は食について興味があるので、コロナが終息したらイベントキッチンで日本や世界の料理をする会をしたいです。あとは対面でSIPプログラムを行うのも楽しみです！

- ・ 出身地を教えてください。
青森から来ました。
- ・ あなたはいつWISHを知りましたか。
高2の時です。最初は早稲田を受けることは決めていなかったのですが、早稲田のパンフレットを隅から隅まで読んでいたら見つけました。
- ・ あなたがWISHを住居に選んだ理由は何ですか。
いつでも友達がいる寂しくなさそうだなって。その他には環境が国際色豊かで、多様性があるのも理由の一つではあります。
- ・ WISHに住んでみて分かったWISHの魅力は何ですか。
私の思っていた通りいつでも友達がいることです。常に修学旅行をしているみたいだな、と思います。リビングがガラス越しに見えるのも、入寮前は躊躇していたのですが、廊下から手を振ったり、突然友達の部屋に集まったりもできるので、そこが良いところだと思います。
- ・ 今後WISHでしたいことはありますか。
SIアワードに参加して海外に行きたいです。また留学生ともっと仲良くなりたいです。

Youは何しにWISHへ

- ・ 出身地はどこですか。
群馬県出身です。
- ・ あなたはいつWISHを知りましたか。
高校2年生の時にWISHを知りました。私はもともと付属高校に通っていたので、高校に入った時点で東京に住むことは決まっていた、寮を探しているときに見つけました。
- ・ あなたがWISHを住居に選んだ理由は何ですか。
寮生が様々な地域・国から来ていることですね。あとはSIプログラムにも惹かれました。自炊できるのもいいなと思っていました。
- ・ WISHに住んでみて分かったWISHの魅力は何ですか。
やっぱり友達がたくさん出来ることです。キッチンにいると自然と友達ができます。あとはジムや音楽室など、設備が整っていることです。駅近で通学に便利な中野区の立地も良いと思います。寮の下にファミマがあったりと、少し外に出るだけで何でも買えます。
- ・ 今後WISHでしたいことはありますか。
今はコロナで交流会やパーティーとかはオンライン上でしか出来ないけど、いつかは開催できることを期待しています！

Contributions

Writers



Yuki



Kento



Akari



Haruka

Translators



Sarah



Toshiki

Designers



Yuki



Tina



Rebecca

RA Supporters



Satoshi



Yukie



Moeka



Miyumi



Yuma



Renuka



Nao